

協働



自分を知る ～メタ認知を利かせる～

校長 西村 元一

性格・考え方・行動などの自分の特性を知ることが自己理解と言ったりします。自己理解は自己肯定感を高めるために重要です。学校だより第4号で記したとおり、自己肯定感は主体性の原動力です。

先週の朝礼で、自己理解の方法について考えました。

私が教員になった時期は、テレビゲームが家庭に入り始めた頃で、私は「ドラゴンクエスト」というゲームに挑戦しました。ゲームの中の自分(キャラクター)を育てながらゴールを目指すタイプのゲームです。ゴールすることを妨げる敵を退けるために、ゲームの中の自分を分析します。今のパワーはどのくらいか、持っている武器は何か、今の自分が対抗できる相手のレベルはどのくらいか、どんな力を付ければ次のステージに進めるかなど、ゲームの中の自分に対して自己理解を深め、適切な行動を選択しながらゴールを目指します。

現実の世界でも同じです。心の中のもう一人の自分が自分自身をモニターすることで、自分の特性やその時の気持ちなどの理解が深まります。自己理解が深まれば、適切な目標を設定できたり、上手に長所を生かせたり、自分の苦手な場面を予測して他者の助けを借りたりできます。自分が腹を立てやすいシチュエーションが分かっているならば、前もってその場面から距離をとることもできます。

自己をモニターし、自己をコントロールすることを「メタ認知」といい、これが「自分を知る」ことです。「メタ認知」を利かせ、様々な場面で適切に行動することができた経験は、自信となり自己肯定感を高めます。そして、新たな主体性の発揮につながります。

学校では、「自分を知る」教育の研究を進めているところです。

10・11月の奥多摩中学校

10月21日 プロジェクトアドベンチャー(1・2年生)

ファシリテーターの指導の下、手を繋いだまま鬼ごっこをしたり、回している縄跳びの輪を走ってくりぬけたり、グループでフラフープの輪を潜り抜ける時間を競ったりすることを通して、主体性や協働の精神を学びました。1・2年混合で、楽しそうに課題に取り組みました。



10月25日(月) 体育大会

何度か延期になった体育大会をようやく行うことができました。「はじけた笑顔で最後まで～Over the top～」のスローガンのもと、互いに協力し、応援し、励まし合い、3年生を中心に大きな行事を成功させることができました。平日開催にも関わらず応援に駆けつけてくださった保護者の皆さま、ご声援ありがとうございました。



11月10日(水) 奥多摩探検(1年生)

氷川・海沢地域に地域学習に行きました。コースは班ごとに自分たちで考えました。ビジターセンターを訪問したり、愛宕山を登ったり、氷川発電所を観察したり、氷川溪谷を調査したり。天候にも恵まれ、楽しみながら探検することができました。



部活動の様子

スポーツ部

現在、バドミントンに取り組んでいます。部員たちが話し合って決めた目標「みんなでコミュニケーションを取りながら全力でバドミントンを楽しむ」に向かって生徒自身が主体的に活動しています。



スポーツ部の活動の様子

アウトドア部

11月20日（土）に予定している大多摩ウォーキングトレイル清掃活動に向けての準備をしています。

ボランティア部

カルチャー部

ボランティア部で毎月行っている氷川小橋下の清掃活動を、11月2日に今回はカルチャー部の生徒にも協力してもらい、一緒に行いました。美しい秋の奥多摩を感じながら、楽しくゴミ拾いをしました。

ゴミ拾いを通して、「環境」「資源」「自然」「生活」などを様々な視点で考えることができます。



写真は、カルチャー部の部員による撮影

「リバウンド防止措置期間終了に伴うコロナ対応」 要旨

学校の教育活動については、感染症対策を徹底した上で実施していく方向で検討します。基本的な感染症対策を次のように考えます。

- 1 正しいマスクの着用(原則着用)、「3」密の回避、正しい手洗い
 - ・マスク着用：最低1 m以上の間隔（できれば2 m以上）
 - ・マスクなし：最低2 m以上の間隔（できれば3 m以上）やむを得ずマスクなしとする場合(激しい運動を伴う活動等)、距離をとる、接近する場合は短時間にするなど工夫して実施する。
- 2 常時換気の徹底（最低30分に1回）
- 3 毎朝の検温と教室に入る前の健康チェック
- 4 体調不良の場合は登校せず受診を促す
- 5 教室等の消毒及び消毒液の設置
- 6 速やかな下校を指導する

特に、工夫を施しても「1」及び「2」が徹底できない場合については、実施可能な取組への変更等を検討します。